

政治地理学の領域と世界の首府

藤岡謙二郎*

The Scope of Political Geography and the World Capitals

Kenjiro FUJIOKA

〔I〕 各国の政治地理学と首府研究の意義

政治地理学は国家、領土、国民3者の地域的構成とその動態を研究するから地理学部門の中では最も政治面や行政面に深く、一たび思想や歴史を異にした国と国とが対立すると、第三者の客観的判断を困難ならしめることさえある。戦前の政治地理学研究はややもすると国際関係のみを主にした地政学的な観点からのみ自国領土の保全と拡張、つまり自国の侵略を正当化し、**国境問題**等の研究に焦点があてられたが、戦後の政治地理学はG. Taylor が編著『20世紀の地理学』中で論じたように**平和の政治地理学** (“Geopacifism”,¹⁾ でなければならない。世界のあらゆる国々の共存共栄と人類の平和、住民の福祉向上に資するものでなければならない。核兵器による戦争の悲さんを経験した敗戦国日本の場合、幸いにも終戦後今日まで37年の平和を維持し、その間沖縄の話し合いによる祖国復帰をみてからも既に15年になる。しかしなお米軍基地は完全に撤去されたわけではない。けれども今後の日本は政治的にも経済的にも国際間の孤児になることなく、しかもあの敗戦時に誓った中立と戦争放棄を忘れてはならない。

それにしてもこの第2次大戦後の37年間には世界の各地でずいぶん内戦や内紛がくりかえされ、戦後の世界の国々にも、ずいぶん質的变化がみられた。それは第1次大戦後の変化よりも大であっても小ではない。

すなわち第1表にみるように、この30年間に独立国の数が74から166に増加したことがこれを物語る。しかも君主国に較べて共和国の数が3倍に近い増加を示すことである。これを6大州別にみると、いうまでもなくアフリカ大陸において最も政体に変化があり、ここでは永い間のヨーロッパの植民地支配を蒙った原住民族の本国からの独立がみられ、その間、国によって人種間による内戦もくりかえされた。

すでに独立完成後永い歴史をもつ南米大陸諸国においてすらなおフォークランド紛争がイギリスの植民地支配の終末の姿を語るが如くであるが、じつは現世界にはなお45にのぼる、このような旧植民地の名残りが存在するのである。さらに一口に共和国といっても、その中には**民主共和国**も社会主義的な**人民共和国**もあり、政体とその変化には夫々の地域での住民の永い歴史が介在しているのである。

ところでこの**国の変化**とともに、政治の中枢機関である世界の**首府**もまたこの間に可成りその景観、内容を変化させた。首府の中には紀元前の昔から例い支配者や政体は変じても同一場所を占居するものが多いが、パキスタンのイスラマバードのように戦後新開地に

* 地理学研究室（昭和57年9月30日受理）

第1表 111年間における

年代と政体 州 別	1870				1920			
	王国等	共和国等	他	計	王国等	共和国等	他	計
ア ジ ア	6	0	1	7	7	1	1	9
ヨーロッパ(ソ連)	15	2	1	18	17	13	2	32
アフリカ	0	0	0	0	1	1	1	3
北アメリカ	0	9	1	10	0	10	2	12
南アメリカ	1	8	1	10	0	10	0	10
オセアニア	0	1	0	1	0	0	2	2
合 計	22	20	4	46	25	35	8	68
独立国計	42		／	／	60		／	／

移転したり、設立されたもの²⁾のもすくなくない。また同一民族が居住するベルリンのように歴史的市街地が政体を異にする国により東西に2分断されたままであったり、今は退去したPLOのゲリラ軍とイスラエル軍の戦場地に化したペイルートの如きものもある。アフリカの黒色人種の新興国ボツアナ共和国では1966年以後特殊な形態をとる新首都ハボローネ(Gaborone)が建設されるなど国の変化に伴う首府の進化もさまざまである。また大ロンドン、大パリ計画(副都心のデファンス²⁾をふくむ)をはじめ、日本では一度び焼野原と化した首都の再建をめざして1956年(昭和31)4月には首都圏整備法が成立、以後着々と首都の改造をめざして首都圏計画がなされて来たことはいうまでもない。³⁾

元来政治地理学は国の政治や行政面を意識したいわば“dynamische Länderkunde”であるから歴史地理学的アプローチや地誌的叙述を必要とすることはいうまでもない。この意味で戦前に Politische Geographie の名称をはじめて使用したドイツの環境決定論的地理学者のラッツェル(F. Ratzel)⁴⁾とともに Strategic Geography の名称を使用したイギリス地理学の祖マッキンダー(H. J. Mackinder)や日本にあっては京大文学部史学科での我が国最初の地理学講座の開設者小川琢治がまた政治地理学の祖でもあったともいうことが出来る。マッキンダーの書物は島国イギリスの世界における位置を歴史地理的地誌的に述べたもの⁵⁾、一方小川の書物⁶⁾もまた、戦争地理学の名はあってもその内容は戦国時代末期の日本の戦史や自らがかつてリヒトホーヘンと同じように地質技師として踏査した中国の当時の現状を述べ“革命軍なるもの義兵を挙げると称して、実は無辜の庶民に塗炭の苦楚をなめさせる真相を察知した”とむしろ戦争の悲ざんさを述べる。また戦前に陸軍教授であった岩田孝三⁷⁾の『国境政治地理』にも、国境のもつ自然的歴史的性格が実証的に述べられているが、過去の満ソ国境と民族境界を論じた旧満州国が、日本によるロケットであり当時の日本の侵略地域であったことまでは論じられていない。かくて政治地理学者が国境を論じ、国の成長を歴史地理的に述べるのはよいが、その論説批判はあくまで過去の歴史をふまえての客観的冷静なものでなければならず。且つ今後の政治地理学研究においては、何よりもまず武力による戦争をさけ、話し合いによる解決を第1条件にしなければならないといった問題意識をもっていなければならない。それとともに今後のこの学の課題は、視点を国内の政治や行政区域の現状と将来のあり方に向わねばならないことは当然であるが、一方では現状をもたらした過去の政治地域の歴史地理的研究にも向けられねばならないということである。戦後小牧實繁門下の1人である筆者の研究が古代の宮都やそれを発する官道、律令国家における地方の国府、近世における大名領国の首都としての

国の政体その他の州別変化

1951				1956				1981			
王国等	共和国等	他	計	王国等	共和国等	他	計	王国等	共和国等	他	計
10	11	3	24	12	14	17	43	11	27	5	43
10	19	0	29	12	19	7	38	11	21	6	38
2	1	1	4	1	3	52	56	3	48	5	56
0	11	1	12	0	12	21	33	0	22	11	33
0	10	0	10	0	10	4	14	0	12	2	14
0	0	2	2	0	2	25	27	0	11	16	27
22	52	7	81	25	60	126	211	25	141	45	211
74		／	／	85		／	／	166		／	／

城下町等に向けられたのは、日本の現代都市の殆んどが、これらのふるい起源をもつ歴史的都市であり、現在の日本の政治や行政地域の地理的理解にはその歴史地理学的分析が必要だと考えたからであった。この点同じ小川・小牧門下の米倉二郎が戦争中『東亜地政学研究』(昭和16年)を出版したが、じつは氏の研究もまたもともとは筆者と同じ国府以下の日本古代の歴史地理学の領域⁹⁾なのである。

ところで日本といわずマッキンダーの系統を引くイギリスでも、やはり政治地理研究には政治を主にした歴史地誌の傾向が強い。例えばケンブリッジ大学の地理学者パウンド(N. Pounds)の書物⁹⁾をみると、古代ローマ帝国以来のヨーロッパにおける各国の領土変遷、ことに第1次大戦後のめまぐるしい変化と列強による帝国主義的行動を述べ、第2次大戦後はこれを大西洋と太平洋地域に2大別したその題目の如き政治歴史地誌書である。その叙述は極めて客観的であり、結論ではむしろ地政学を批判して“*It is impossible to examine here the genesis of this german pseudo-science and the debt it owes to three very different personalities — Mackinder, the Swede Rudolf Kjellén, and the German geographer Friedrich Ratzel*”と述べている。

同様に日本では歴史地理家と見なされているロンドン大学教授だったイースト(W. G. East)も同ウールドリッジ(S. W. Wooldrige)との共著¹⁰⁾の中で、マッキンダー説を継承。“*Political Geography focuses attention on both the external and internal relationships of states, each of which raise problem*”と定義し、国家が内蔵する自然的環境の問題からはじめて、経済資源、住民の人種民族言語的構成、“*Nuclear area*”(核心地)、幹線道路の放射する首府、連邦国家と単節国家、境界等の問題を世界全般にわたり述べている。かくの如く政治地理学研究¹¹⁾には現状を理解するための過去の歴史的研究が必要なのである。しかし、ここイギリスでも近年アメリカに近い比較的歴史的非歴史的なケンブリッジシア大学のみール(R. Muir)の政治地理書が出版された。内容は9部から成るがここでも第2部の“*Political Region and Time*”の中では1. *Territory in different forms*. 2. *Development in Europe*. 3. *The Shape of things to come*. 4. *Theoretical approaches*の4章を設け、歴史地図帖の活用と政治地域或はCore areaの発生と発展におけるプロセスの歴史的研究の必要性をとく。

また第5部のPolitical Process and the StateでもNation, Nationalism, Nation Stateの関係や政治問題に関連した景観の変化を時間的進化という観点からとらえようとしている点が、歴史のふるいヨーロッパの政治地理論というべきであろうか。その他この国におい

ては半世紀近く前にコーニッシュ (V. Cornish) がユーラシアの首都の分布が緯度や気温に関係深く¹²⁾, しかもローマ時代領土の北方限界線や万里長城線の意義について論じている。

これに対してアメリカの政治地理学はどちらかといえば現在を主にした地誌をより自国中心の動態的実用的政治地理に向けようとしている。これについて横山昭市¹³⁾は“過去の遺産の評価から政治的空間分析まで”と題してかつてのハーツホーン (R. Hartshorne)¹⁴⁾やホイットルシー (D. Whittlesey)¹⁵⁾等の **Geo-political** な遺産を評価しながらも“50年代から60年代にかけては国家や国際関係, 国力等に関する政治地理書が多く出版されたこと, 60年代以降は機能的システム論的アプローチが盛んで, “空間的 spatial” という用語がしきりに使用されたとし, マイアミ大学のブリッジ (J. de Blij) の“人間”の政治行動と空間的表現システムの研究, またクラーク大学のコーエン (B. Cohen) とメリーランド大学のローゼンタール (Rosenthal) の共著になる, 論文等¹⁶⁾を紹介する。うち最も重要な3版をかぞえるブリッジ及びグラスナー (M. I. Glassner) の書¹⁷⁾の目次をあげると次のごとく9部に大別される。

(1) Introduction to Political Geography (2) The State (3) Subdivisions of the State (4) Geopolitics (5) Imperialism, Colonialism and Decolonization (6) Contemporary International Relation (7) Our Last Frontiers (8) The Political Geography of Everyday Life (9) Looking Ahead,

この組立てにみられるように自国主体の地政学的な地理学書であることが一貫されて読みとられる。例えば終章(9)の“The Role of Political Geographers in the Future”の結論では, かのバウマン (I. Bowman) も第1次大戦後のパリの世界平和会議でのアメリカの代表団であり, 政治地理学者はすべからく政府機関に役立つべきことを述べる。本書ではかくてアメリカ中心の世界のトピックスを取扱うほか, 日常生活のすべてが政治地理学研究につながることを世界全体の事例からながめる, 例えば8部第31章“The Politics of Religion and Language”, 32章“The Politics of Transportation & Communication”, 33章 The Politics of Population and Food, 34章を The Politics of Ecology, Energy and Land-use で結んでいることは, この国の政治地理学研究が農業地理学者でもあるホイットルシー以来の動態的系統政治地理書の遺産を継承していることを物語る。

この場合彼は主要な政治地理の課題を2部で述べ, 元来 State は 1. Land territory. 2. Permanent resident population. 3. Government. 4. Organized economy. 5. Circulation system. の5条件を必要とすることを原住民の住む南アのレソト (Lesotho) 王国に例をあげ, Nation-State については“...is the ideal form which most nations and state aspire...”であるとし, トルコ民族やギリシャ民族の抗争のたえないキプロス共和国やエチオピア, イタリア, イギリス, フランスの勢力の交錯するアフリカのソマリア共和国等を理想的ではない Irredentism な国だとする。また第5章の The Emergence of States ではブッシュマン等原始部族の国家から始めて古代東方及び中国の専制国家をあげ, ここでガーナやマリ等西アフリカの原住民の古代国家, 中南米においてはインディオの古代国家や領土を述べる点はヨーロッパの書物にはみられない点であるが, 肝心のローマ帝国を中心としてヨーロッパの諸国の歴史にはふれていない点が欠管でもある。また第2部6章の Modern Theories about State では環境論的政治地理を批判し, 今後の研究が機能的なアプローチに求められるべきこと, それについては K. Deutsch が1953年の論文¹⁸⁾で述べた次の8つの項目での“recurrent patterns of integration”をあげる。

このドイツ語の8項目にはその2に Core Area. 3に町の発達, 5に首府があるが¹⁸⁾彼もまたこの書の第2部で Core-Area and Capitals の章を設け両者の関係をのべる。“Many states, ... originally grew around urban centers that possessed nodality and attained strength and permanence” と書きおきし首府には南米のそれのように摩天楼の立ち列ぶもの、エチオピアのアディスアベバのように他のものがかくされた仮面のようなもの、さらにブラジリアのようにブラジル国民の内陸への夢がリオからの遷都を促したこと等、さまざまである事状を述べる。更に首都の機能も時代によって変化することを解く。結局その Morphological Approach として、1. Permanent capitals. 2. Introduced capitals. 3. Divided capitals. をあげ、3にはオランダのヘーグとアムステルダムや南アのプレトリアとケープタウン等をあげる。いずれにせよこの Blij のその名も系統的**政治地理学**は豊富な世界各地の地図を利用した動態的地誌書として、ホイットルシィ以来のアメリカ的政治地理の遺産を発展せしめたものということが出来るのであって同じ、アメリカでも、東シシガン大学の P. Buckholts 教授の書物が平凡な環境論的系統地理学的書物であるのに較べると異色ある書物である。

これを要するに戦後の政治地理学にあっても依然として Frontier や Boundary の研究、国際関係の変化等 Geopolitical な課題、すなわち**国の外部的活動に関する研究**が盛んであるが、一方国の内部的な研究では**新誕生国の行政問題と関連した首都計画**はもとより、既存の膨張拡大する首都においても、その移転か、しからずは再開発を前提とした**広域都市圏計画**に迫られている。しからば次章では具体的に第2次大戦後における世界の国々の変化を前提とした政治的中枢機関であるその首府の現状、進化の問題を政治・都市地理学的な観点から、これを筆者の**地域変遷史的方法**から考察してみたい。

〔Ⅱ〕 戦後の世界の国々の変化と首府

筆者は今から30年前の1952年当時、1870年、つまりヨーロッパの大国フランスが王国から共和国になってから以後1951年までの80年間における国の政体の変化とそれに伴う世界の首府の性格を概観したことがあった。その間2回の世界大戦が勃発したので、その前後世界の国及び首府がいかに変化したかを考えたことがある。

第1表中の1870、1920及び1951各年の統計¹⁹⁾がその時のものである。但しこの統計と政体中「他」とあるのは当時自治領及びこれを準じるもののみをあげたが、今回の1956年及び1981²⁰⁾現在ではひろく、植民地の全体数もふくませることにした。従ってこれら各年代を比較するには独立国の数のみを取りあげることにした。参考迄に、これによると110年間に独立国の数は1870年の42から1981年現在の166になったのであるから、約4倍になったわけである。ところがこの急激なる増加の実態は、じつはあの論文を書いた1951年以後、これを州別にみると“1960年は**アフリカの年**”といわれるように、この年以後のアフリカ大陸にみられるのである。そこで本文では統計の関係や前回での考察との重複をさけて、1956年以後の**¼世紀間²⁰⁾の世界の国々及び首府の性格の変化**について、これを国及び首府に2大別して論を進めたいと思う。動く国及び首府の**地域変遷史的研究**である。

(1) 6大州別にみた¼世紀間の国々の政体変化

第1表には1956年と同81年における6大州別—この場合ソ連は統計上はヨーロッパ州に入れられる一国及び各国領地の数の変化をしるした。独立国はこれを王国等及び共和国等に2分したが、第2表にみるように、王国等の中には立憲君主国から土侯国・首長国的なもの、またローマ法皇が元主であるバチカン市国等もふくまれる。また王国といひ君主国

第2表 1981年現在の世界

国 名		国 の 性	
		81 年	56 年
アジア (東アジア, 東南アジア, 西南アジア)			
1	日 本 (Japan)	立憲君主国	君 主 国
2	アフガニスタン (Afganistan)	民主共和国	立憲王国
3	アラブ首長国連邦 (United Arab Emirates)	首長国連邦	イギリス保護国
4	イスラエル (Israel)	共和国	共和国
5	イラン・イスラム (Islamic Rep of Iran)	共和国	立憲王国
6	イ ラ ク (Iraq)	共和国	立憲王国
7	イ ン ド (India)	民主共和国	民主共和国
8	インドネシア (Indonesia)	共和国	立憲共和国
9	オーマン (Oman)	共和国	イギリス土侯保護国
10	カタール (Qatar)	共和国	イギリス土侯保護国
11	大韓民国	共和国	立憲共和国
12	カンボジア民主 (Kampuchea)	(王 国)	立憲王国
13	北イエメン (アラブ)	共和国	王 国
14	北朝鮮 (朝鮮民主主義)	人民共和国	人民共和国
15	キプロス (Cyprus)	共和国	イギリス植民地
16	クウェート (Kuwait)	首長国	イギリス保護国
17	サウジアラビア (Saudi Arabia)	王 国	王 国
18	シリア・アラブ (Syria Arab)	共和国	共和国
19	シンガポール (Singapore)	共和国	イギリス植民地
20	スリランカ (Sri Lanka)×	民主社会主義共和国	イギリス自治領
21	タ イ (Thailand)	立憲王国	王 国
22	中 国 (中華)	人民共和国	民主共和国
23	トルコ (Turkey)	共和国	共和国
24	ネパール (Nepál)	立憲君主国	王 国
25	パキスタン (Pakistan)	回教共和国	共和国
26	バーレーン (Bahrain)	首長国	イギリス土侯国
27	バングラデシュ (Bangladesh)	人民共和国	東パキスタン共和国
28	ビルマ (Burma)	連邦社会主義共和国	連邦共和国
29	フィリピン (Philippines)	共和国	共和国
30	ブータン (Bhutáh)	王 国	インド保護国
31	ベトナム (Vietnam)	社会主義共和国	北ヴェトナム共和国
32	マレーシア (Malaysia)	王 国	イギリス領マライ連邦
33	南イエメン (Yemen)	人民民主共和国	イギリス領アデン
34	モルジブ (Maldives)	共和国	イギリス保護領
35	モンゴル (Mongol)	人民共和国	人民共和国
36	ヨルダン・ハシエミット (Jordan)	王 国	王 国
37	ラオス (Lao)	人民民主共和国	立憲王国
38	レバノン (Lebanon)	共和国	共和国
(1)	ブルネイ (Burnei)	イギリス自治領	
(2)	香 港 (Hong Kong)	イギリス直轄植民地	
(3)	マカオ (Macao)	ポルトガル植民地	
(4)	パレスチナ (Palestina)	P L O 機 構	
(5)	東チモール (Timor)	ポルトガル領	

の国と首府

格 独立年	首 府			備 考
	81 年	56 年	81年人口(万人)	
—	東 京	(696.9)	834.9	特別区
1919	Kabul	(20.0)	74.9	
1971	Abu Dhabi	—	23.5	
1948	Jerusalen	(17.0)	43.8	
1935	Teheran	(98.9)	449.6	
1932	Baghdad	(55.0)	320.5	
1947	New Dehli	(27.6)	364.7	
1945	Jakarta ×	(186.2)	457.6	× Batavia
1918	Muscat	—	2.5	
1971	Doha	—	13.0	
1948	Seoul	(157.4)	687.9	
1953	Phnom Penk	(26.0)	70.6	
1918	San'a	(6.0)	44.8	
1948	Pyongyang	—	150.0	
1960	Nicosia	—	12.1	
1961	Kuwait	—	8.04	
1927	{Mecca	{(15.0)	{36.6	
	{Riyadh	{(0.6)	{66.6	
1941	Damascus	(37.2)	104.2	
1965	Singapore	(112.3)	207.4	
1948	Colombo	(42.0)	56.2	× Ceylon
1932	Bangkok	(119.3)	487.0	
—	北 京	(276.8)	850.0	
1924	Ankara	(28.6)	123.6	
1923	Kátmánda	(11.0)	19.5	
1956	Isramabad	Karachi (130.0)	7.7	
1971	Manama	—	8.2	
1970	Dacca	—	131.0	
1948	Rangoon	(71.1)	366.2	
1946	Manila	(110.4)	162.6	
1949	Thimphu	—	—	
1976	Hanoi	{Hanoi (50.0)	144.3	× ホーチミン市
1957	Kuala Lumpur	{Saigon (150.0) ×	45.0	
1967	Aden	—	26.4	
1953	Malé	—	2.9	
1921	Uran Bator	—	40.0	
1946	Amman	(17.0)	73.2	
1974	Vientiane	—	17.6	
1944	Beirut	(40.0)	70.2	

国名	国の性	
	81年	56年
ヨーロッパ (西ヨーロッパ, 東ヨーロッパ, ソ連)		
39 アイルランド (Ireland)×	共和国	共和国
40 アイスランド (Iceland)	共和国	共和国
41 アルバニア (Albania)	人民共和國	人民共和國
42 イギリス (United Kingdom of Great Britain & Northern Ireland)	連合王国	連合王国
43 イタリア (Italy)	共和国	共和国
44 オーストリア (Austria)	共和国	連邦共和国
45 オランダ (Netherland)	王国	君主国
46 ギリシャ (Greece)	共和国	立憲君主国
47 サンマリノ (San Marino)	共和国	共和国
48 スイス (Swiss)	連邦共和国	連邦共和国
49 スウェーデン (Sweden)	王国	王国
50 スペイン (Spain)	王国	王国
51 チェコスロバキア (Czecho-Slovak)	社会主義共和国	民主共和国
52 デンマーク (Denmark)	王国	王国
53 ドイツ民主 (German Democratic)	共和国	共和国
54 ドイツ連邦 (Federal Republic)	共和国	共和国
55 ノルウェー (Norway)	王国	立憲世襲王国
56 ハンガリー (Hungary)	人民共和國	人民共和國
57 バチカン (Vatican)	市	市
58 フィンランド (Finland)	共和国	共和国
59 フランス (France)	共和国	共和国
60 ブルガリア (Bulgaria)	人民共和國	人民共和國
61 ベルギー (Belgium)	王国	王国
62 ポーランド (Poland)	人民共和國	人民共和國
63 ポルトガル (Portuguesa)	共和国	共和国
64 マルタ (Malta)	共和国	イギリス領
65 モナコ (Monaco)	公国	立憲君主国
66 ユーゴスラビア (Yugoshavia)	社会主義連邦共和国	連邦人民共和国
67 リヒテンシュタイン (Liechtenstein)	公国	立憲世襲君主国
68 ルーマニア (Romania)	社会主義共和国	社会主義共和国
69 ルクセンブルグ (Luxenburg)	大公国	立憲君主国
70 ソビエト (Soviet, U. S. S. R.)	社会主義共和国連邦	社会主義共和国連邦
(6) ジブラルタル (Gibraltar)	イギリス直轄植民地	
(7) チャネル島 (Channelss)	イギリス直轄植民地	
(8) マン島 (Isle of Man)	イギリス直轄植民地	
(9) フェロー諸島 (Faroe Is.)	デンマーク領	
(10) スバルバル・ヤンマイエン (Svalbard)	ノルウェー領	
(11) アンドラ (Andorra)	フランス・スペイン	
アフリカ (北アフリカ, 中部アフリカ, 南アフリカ, 東アフリカ)		
71 アルジェリア (Algeria)	民主人民共和国	旧フランス領
72 アンゴラ (Angola)	人民共和國	旧ポルトガル領
73 ウガンダ (Uganda)	共和国	イギリス保護領
74 エジプト・アラブ (Egypt)	共和国	共和国

格	首 府			備 考	
	独立年	81 年	56 年		81年人口(万人)
1921	Dublin		(50.6)	57.0	×Eire
1944	Reykjavik		(6.0)	8.3	
1912	Tirana		(8.0)	272.0	
—	London		(334.8)	687.7	広域人口
—	Rome		(169.5)	291.1	
—	Vienna		(176.0)	161.4	
1581	Amsterdam		(86.4)	71.6	
1830	Athens		(136.0)	254.0	広域人口
—	St Marino			1.9	全国人口
1815	Bern		(15.5)	110.7	
—	Stokholm		(76.9)	149.3	広域人口
—	Madrid		(175.6)	314.6	
1918	Prague		(93.0)	114.2	
—	Copenhagen		(116.8)	121.3	広域人口
1871	Berlin (East) ×		(336.9)	113.3	×西ベルリン 190.2
1949	Bonn			28.6	
1905	Oslo		(44.5)	45.4	
1920	Budapest		(106.0)	206.0	
1929	Vaticancity		0.1	(1,000人)	全国人口
1917	Helsinki		(39.6)	48.3	
—	Paris		(285)	231.7	
1908	Sopia		(43.0)	103.1	
1871	Brussels		(97.0)	220.0	
1918	Warsaw		(90.0)	228.8	
—	Lisboa		(80.0)	157.7	広域人口
1964	Valleta	—		1.4	
1815	Monaco		(2.0)	2.5	
1945	Belgrad		(47.0)	120.9	広域人口
1866	Vaduz		1.3	(4,740人)	全国人口
1881	Bucharest (Bucuresti)		(104.1)	183.2	
1839	Luxemburg		(6.2)	36.3	全国人口
1917	Moskva		(413.7)	809.9	
1962	Algier		—	99	
1975	Luanda		—	48	
1967	Kampala		—	33.2	
—	Cairo		(210.0)	508.4	

	国名	国の性	
		81年	56年
75	エチオピア (Ethiopia)	連邦共和国	王国
76	オートボルタ (Upper Volte)	共和国	フランス領
77	カボベルデ (Cape Verde)	共和国	ポルトガル領
78	カメルーン (Cameroon)	連合共和国	フランス領
79	ガーナ (Ghana)×	共和国	イギリス領
80	ガボン (Gabon)	共和国	フランス領
81	ガンビア (Gambia)	共和国	イギリス領
82	ギニア (Guinea)	人民革命共和国	フランス領
83	ギニア・ビサウ (Guinea-Bissau)	共和国	ポルトガル領
84	ケニア (Kenya)	共和国	イギリス領
85	コモロ・イスラム (Comoro Islam)	共和国	フランス領
86	コンゴ (Congo)	人民共和国	フランス領
87	ザイール (Zair)	共和国	ベルギー領
88	サントメ・プリンシペ (São Tomé Principe)	共和国	ポルトガル領
89	ザンビア (Zambia)×	共和国	イギリス領
90	シエラレオネ (Sierra Leone)	共和国	イギリス領
91	ジブチ (Djibouti)	共和国	フランス領
92	ジンバブエ (Zimbabwe)×	共和国	イギリス領
93	スーダン (Sudan)	民主共和国	共和国
94	スワジランド (Swaziland)	王国	イギリス領
95	セイシェル (Seychelles)	共和国	イギリス領
96	赤道ギニア (Equatorial Guinea)	共和国	スペイン領
97	セネガル (Senegal)	共和国	フランス領
98	ソマリア (Somalia)	民主共和国	イギリス・イタリア 領合併
99	コートジボアール (Ivory Coast)×	共和国	フランス領
100	タンザニア (Tanzania)×	連合共和国	インド領、イギリス領
101	チャド (Tchad)	共和国	フランス領
102	中央アフリカ (Central Africa)	共和国	フランス領
103	チュニジア (Tunisia)	共和国	フランス保護領
104	トーゴ (Togo)	共和国	イギリス・フランス領
105	ナイジェリア (Nigeria)	共和国	イギリス領
106	ニジェール (Niger)	共和国	フランス領
107	ブルンジ (Burundi)	共和国	ベルギー領
108	ベニン (Benin)×	人民共和国	フランス領
109	ボツワナ (Bostwana)×	共和国	イギリス領
110	マダガスカル (Madagascar)	共和国	フランス領
111	マラウイ (Malawi)×	共和国	イギリス領
112	マリ (Mali)	共和国	フランス領
113	南アフリカ (South Africa)×	共和国	イギリス領
114	モザンビーク (Mozambique)	人民共和国	ポルトガル領
115	モーリシャス (Mauritius)	イギリス領内共和国	イギリス領
116	モーリタニア・イスラム (Mauritania)	共和国	フランス領
117	モロッコ (Morocco)	立憲王国	フランス領
118	リビア・アラブ (Libyan Arab)	社会主義人民共和国	イタリア・イギリス・ フランス領
119	リベリア (Liberia)×	共和国	共和国
120	ルワンダ (Rwanda)	共和国	ベルギー領

格	首 府			備 考	
	独立年	81 年	56 年		81年人口(万人)
—	Addis Ababa		(40.0)	108.3	
1960	Ouahigouya	—	—	2.5	
1975	Praia	—	—	2.1	
1960	Yaounde	—	—	31.3	
1957	Accra	—	—	63.6	× 黄金海岸
1960	Libreville	—	—	25.1	
1965	Banjul	—	—	3.9	
1958	Conakry	—	—	52.5	
1973	Bissau	—	—	10.9	
1963	Nairobi	—	—	50.9	
1975	Moroni	—	—	15.0	
1960	Brazzaville	—	—	31.0	
1960	Kinshasa ×	—	—	244.3	× Leopoldville
1975	São Tomé	—	—	6.6	
1964	Lusaka	—	—	55.5	× 旧北ローデシア
1961	Freetown	—	—	27.4	
1977	Jibuti	—	—	30.0	
1980	Salisbury	—	—	11.3	× 南ローデシア
1956	Khartoum		(6.1)	33.3	
1968	Mbabane	—	—	2.2	
1976	Victoria	—	—	6.1	
1968	Malabo	—	—	1.9	
1960	Dakar	—	—	97.8	
1960	Mogadishio	—	—	40.0	
1960	Abdjan	—	—	68.5	× 象牙海岸
1964	Dal es Salaam	—	—	87.0	× タンガニーカとザンジバル島合併
1960	N'djaména	—	—	24.1	
1960	Bangui	—	—	30.1	
1956	Tunis	—	—	50.5	
1960	Lome	—	—	24.7	
1960	Lagos	—	—	144.3	
1960	Niamey	—	—	13.0	
1966	Bujumbura	—	—	15.7	
1960	Port Novo	—	—	10.4	× 旧ダホメ
1966	Gaborone	—	—	5.4	× ベチユアナランド
1960	Antananarivo	—	—	40.0	
1966	Lilongwe	—	—	10.2	× 旧ニアサランド
1960	Bamako	—	—	40.4	
1910	Pretoria	—	—	56.1	× 南アフリカ連邦
1975	Maputo	—	—	35.4	
1968	Port Louis	—	—	14.1	
1960	Nouakchott	—	—	13.4	
1962	Rabat	—	—	36.7	
1951	Tripoli	{	Tripoli (13.6)	73.5	
1847	Monrovia	{	Bengazi (6.0)	20.8	× 黒人移民区
1962	Kigali	—	(2.1)	11.8	

	国名	国の性	
		81年	56年
121	レソト (Lesotho)	王国	イギリス領
(12)	インド洋地域×	イギリス領	
(13)	セントヘレナ (St. Helena)	イギリス領	
(14)	カナリア諸島 (Canarias Is.)	旧スペイン領	
(15)	レユニオン (Reunion)	フランス領	
(16)	ナミビア (Namibia)×	旧国際連合直轄区域	
北アメリカ (カナダ, 合衆国, 中米, アンチル諸島)			
122	アメリカ合衆国 (U. S. A.)	連邦共和国	連邦共和国
123	アンティグア (Antigua)	共和国	イギリス領
124	エルサルバドル (El Salvador)	共和国	共和国
125	カナダ (Canada)	共和国	イギリス連邦独立自治領
126	キューバ (Cuba)	社会主義共和国	共和国
127	グアテマラ (Guatemala)	共和国	共和国
128	グレナダ (Grenada)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
129	コスタリカ (Costa Rica)	共和国	共和国
130	ジャマイカ (Jamaica)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
131	セントビンセント (Saint Vincent)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
132	セントルシア (Saint Lucia)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
133	トリニダード・トバゴ (Trinidad Tobago)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
134	ドミニカ (Commonwealth of Dominica)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
135	ドミニカ (Dominican Republic)	共和国	共和国
136	ニカラグア (Nicaragua)	共和国	共和国
137	ハイチ (Haiti)	共和国	共和国
138	パナマ (Panama)	共和国	共和国
139	バハマ (Commonwealth of Bahamas)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
140	バルバドス (Barbados)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
141	ベリセ (Beilze)	イギリス連邦内独立国	イギリス領
142	ホンジュラス (Honduras)	共和国	共和国
143	メキシコ (United Mexican States)	連邦共和国	連邦共和国
(17)	カイマン諸島 (Cayman I.)	イギリス領	
(18)	セントキッツネビス (St. Kitts Nevis)	イギリス領	
(19)	カイコス諸島 (Caicos)	イギリス領	
(20)	バミューダ諸島 (Bermuda I.)	デンマーク領	
(21)	グリーンランド (Greenland)	フランス領	
(22)	グアドループ (Guadelepe)	フランス領	
(23)	サンピエール・ミクロン (St. Pierre & Miquelon)	フランス領	
(24)	マルチニーク (Martinique)	フランス領	
(25)	バージン諸島 (Virgin I.)	アメリカ領	
(26)	プエルトリコ (Puerto Rico)	アメリカ領	
(27)	アンチル (Antilles)	オランダ領	
南アメリカ (アンデス山地, アマゾンブラジル台地, ラプラタ低地)			
144	アルゼンチン (Argentina)	共和国	共和国

格	首 府			備 考
	81 年	56 年	81年人口(万人)	
独立年				
1966	Maseru	—	4.5	
				×アルダブラ諸島 他 ×旧南アフリカ支 配下
1776	Washington	(80.2)	63.5	
1981	St. Johns	—	2.3	
1841	San Salvador	(15.2)	91.4	
1949	Ottawa	(20.2)	30.4	
1902	Habana	(78.3)	173.5	
1839	Guatemala City	(29.5)	123.9	
1974	St. Georges	—	11.0	
1830	San José	(12.3)	25.0	
1962	Kingston	—	11.0	
1979	Kingstown	—	0.4	
1979	Castries	—	4.0	
1962	Port of Spain	—	—	
1978	Roseau	—	1.6	
1865	Saint Dominigo	Trujillo (18.2)	81.7	
1838	Managua	(10.9)	67.7	
1804	Port au Prince	(14.2)	45.8	
1903	Panama City	(12.8)	46.7	
1973	Nassau	—	13.8	
1966	Bridgetown	—	0.8	
1981	Belmopan	—	0.4	
1839	Tegucigalpa	(9.9)	44.5	
1821	Mexico City	(379.6)	961.8	
1816	Buenos Aires	(355.5)	233.8	

国名		国の性	
		81年	56年
145	ウルグアイ (Uruguay)	東方共和国	共和国
146	エクアドル (Ecuador)	共和国	共和国
147	ガイアナ (Guyana)	協同共和国	イギリス領
148	コロンビア (Colombia)	共和国	共和国
149	スリナム (Suriname)	共和国	オランダ領
150	チリ (Chilie)	共和国	共和国
151	パラグアイ (Paraguay)	共和国	共和国
152	ブラジル (Brazil)	連邦共和国	連邦共和国
153	ベネズエラ (Venezuela)	共和国	共和国
154	ペルー (Peru)	共和国	共和国
155	ボリビア (Bolivia)	共和国	共和国
(28)	フォークランド諸島 (Falkland)	イギリス領	
(29)	ギアナ (Guiana)	フランス領	
オセアニア (オーストララシア, メラネシア,			
156	オーストラリア (Commonwealth of Australia)	連邦共和国	イギリス独立自治領
157	キリバス (Kiribati) ×	共和国	イギリス領
158	ソロモン諸島 (Solomon)	イギリス連邦君主国	イギリス領
159	ツババル (Tuvalu) ×	君主国	イギリス領
160	トンガ (Tonga)	君主国	イギリス領
161	ナウル (Naur)	共和国	共同信託統治領
162	西サモア (Western Samoa)	共和国	ニューージーランド信託統治領
163	ニューージーランド (New Zealand)	イギリス連邦独立国	イギリス独立自治領
164	バヌアツ (Vanuatu) ×	共和国	イギリス・フランス領
165	パプア・ニューギニア (Papua New Guinea)	イギリス連邦共和国	オーストラリア領
166	フィジー (Fiji)	イギリス連邦共和国	イギリス領
(30)	ピトケーン島 (Pitcairn I.)	イギリス領	
(31)	クリスマス島 (Christmas)	オーストラリア領	
(32)	ココス諸島 (Cocos I.)	オーストラリア領	
(33)	ノーフォーク島 (Norfolk I.)	オーストラリア領	
(34)	クック諸島 (Cook I.)	ニューージーランド領	
(35)	トケラウ諸島 (Tokelau I.)	ニューージーランド領	
(36)	ニウエ島 (Niue I.)	ニューージーランド領	
(37)	ニューカレドニア (New Caledonia)	フランス領	
(38)	ポリネシア (Polynesia)	フランス領	
(39)	ワリス・フツナ諸島 (Wallis Futuna)	フランス領	
(40)	ウェーク島 (Wake I.)	アメリカ領	
(41)	グァム島 (Guam)	アメリカ領	
(42)	サモア諸島 (Samoa)	アメリカ領	
(43)	ジョンストン島 (Johnston I.)	アメリカ領	
(44)	ミッドウエー諸島 (Midway I.)	アメリカ領	
(45)	太平洋諸島 (南洋諸島) ×	アメリカ領	

合計 独立国166, 属領ほか45合せて211 (第1表参照)

格 独立年	首 府			備 考
	81 年	56 年	81年人口(万人)	
1828	Montevideo	(85.0)	<u>122.9</u>	
1830	Quito	(21.0)	55.9	
1966	Georgetown	—	18.3	
1819	Bogota	(64.3)	<u>383.1</u>	
1975	Paramaribo	—	15.1	
1818	Santiago	(141.3)	<u>372.4</u>	
1811	Asuncion	(20.4)	42.6	
1822	Brasilia	Rio de Janeiro (260.4)	97.8	
1830	Caracas	(48.7)	<u>103.5</u>	
1832	Lima	(92.6)	<u>348.5</u>	
1825	La Paz	(32.1)	<u>145.6</u>	
ポリネシア, ミクロネシア)				
1901	Canberra	(2.6)	22.2	
1979	Tarawa ×	—	2.2	×旧ギルバート諸島
1978	Honiara	—	1.4	
1978	Funafuti ×	—	0.7	×旧エリス諸島
1970	Nuku'alofa	—	1.8	
1968	Naur	—	0.6	
1962	Apia	—	3.2	
1947	Wellington	(21.7)	(35.0)	
1980	Vila	—	21.4	×ソロモン諸島東南部
1980	Port Moresby	—	12.2	
1970	Suwa	—	6.4	
				×マーシャル, カ ロリン, マリア ナ諸島

という日本語名はその時々日本の年鑑類に掲げられた名称である。また、さきのアメリカのブリジ (Blij) は国を分類して ① The Unitary state ② Federal state ③ Regional state としているがここでは独立国を政体別に王国等と共和国等に2区別した。この後者の場合も政体上からは通常民主共和国と社会主義或は人民共和国とに分れる。ところが共和国の中には上のブリジの②や③に属する連邦或は連合的な国家も少なくない。まず25年間の変化を第1表で見ると独立国は85から166になり、政体別には①に多い王国等が総数25のままであるのに共和国等は60が2倍以上の141となっており、しかも人民共和国も多い。

その他1981年現在でもなお世界には半独立国ともいうべき各国の植民地その他計45の地域が各大陸ともに存在しその数を合せると現在では211の独立国及びその領国が存在することになる。以下さらに第2表について、これをアジアからみてみよう、ソ連を除くこの地域は年鑑類を主にした区分によると、東アジア、東南アジア、西南アジアに区分されている。西南アジアは今もなお紛争のたえない中東地域である。ここでの25年間の政体変化のうち注目すべきは歴史のふるいともにイスラム教徒のイラン、イラク、アフガニスタン3国が王国から共和国に転じ、アフガニスタンではソ連、イラン、イラク間でも内戦が続くほか、かつてのイギリスの植民地ないし保護国であったアラブ首長国、エーメン、オーマン、カタール、クウェート、バーレン等石油資源に富むアラビア半島の諸国が独立したことである。ほかにもイギリス領だったシンガポールやマレーシャ、スリランカが独立した。国名をセイロンからスリランカ (Sri Lanka) に改名したこの国の政体はげんみつには民主社会主義共和国である。同様にビルマの場合も74年以後連邦社会主義共和国となり、永い南北ベトナム戦争は75年北ベトナム軍のサイゴン入城とともに終結、完全な社会主義共和国となる。その他戦後最も政治行政的变化が著しく、日本の過去の帝国主義的行動がいわゆる大東亜戦争を誘致した東アジアにあっては朝鮮半島北部の朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国とが、ともに1948年に完全に独立以後同一民族による対話はなお進行せず、中国は台湾をかかえ、1949年の毛首席路線を修正しながらも戦後の東アジアの大国としてソ連とは別な独自の社会主義の道を歩んでいる。6大州別にみるとアジアはたしかに戦後最も政治的変動の著るしかった大陸である。

ついでヨーロッパについてみるとその独立国等総数は81年現在38でアジアの43に較べると面積僅小の割にふるくからの独立国家の数が多し。しかも政体の進化や変化はアジアよりも一歩早くすでに第1次世界大戦後になされたことは、第1表の1920年と1951年の数字を見れば明かであってこの25年間にはさほどの変化はない。大国ソ連においても同様である。この間にあってソ連よりの東欧の諸国では例えば1918年オーストリアから独立したチェコスロバキアの如く1968年の憲法改正後、チェコ社会主義共和国と、スロバキア社会主義共和国との連邦国家になったもの、ポーランドのような、52年以後人民共和国となって社会主義化路線が進められてもソ連追随政策や重工業偏重に対する批判等もあり、グダニスクでの暴動等もみられた。またここでもイギリス領だったマルタが64年イギリス連邦内の独立国となったほか、なおジブラルタル以下に直轄植民地を残している。その他ドイツについてみると西ドイツはすでに55年5月に北大西洋条約機構 (NATO) に加盟、一方東ドイツは56年にワルシャワ条約に加入して、以来ここでも東西の関係はほぼ固定したものと進行しつつある。

ところがアフリカ大陸の政変は戦後でも、ことにこの25年間に最も著るしかったことは第1表を見れば明かである。56年当時の共和国3が48となり、45国の新誕生をみ、その殆んどがかつてヨーロッパのイギリス、フランス、ベルギー、スペイン、ポルトガル等の植

民地だったもののほか、第2表でも明かなように古い歴史をもつエチオピア王国が連邦共和国となり、一方、かつてのフランス領モロッコが62年の国民投票の結果立憲王国となったものや、同じ元フランス領でも、アルジェリアのように永いフランスとのアルジェリア戦争後、62年になって民主人民共和国になったものもある。戦後産油国として脚光をおびたリビア・アラブの場合もまた、もともとトルコの属領から1912年イタリアの植民地、その後イギリス、フランスの統治下、それが51年に王国として独立、77年に人民共同体の社会主義人民共和国となったものである。北アのアラブ民族の政変は複雑で歴史のふるいエジプトでも56年ナセルが大統領となって以後、スエズ運河の国有化、58年中東のシリアとともにアラブ連合共和国を結成したが、61年にシリアは分離等、外交問題は幾變遷している。シナイ半島の返還にも永い時間を要した。これに対して原住民黒色人種の多い中南アフリカでは、人種問題がこの大陸の重要な課題となることはいうまでもないが、その新独立共和国中にも民主共和国のほか、人民共和国も少ない。例えば旧フランス領赤道アフリカは60年独立当時単なるコンゴ共和国であったものが69年にはマルクスレーニン主義の人民共和国に変わっている。その他ここアフリカにもなお第2表にみる5つの植民地があり、かつてのドイツ保護領だった広域のナミビア (Namibia) は黒人解放勢力が完全独立を求めたが、未だに国際連合の直轄地域としてたち残こされている。

つぎにカナダ、中米をふくむ北アメリカではアメリカ合衆国、カナダを除くと25年間の変化は中米に著しい。従来のイギリス領であった西インド諸島の島嶼にアフリカよりもやや遅く70年代以降に独立共和国が誕生したことである。政体の変化としてはアメリカ軍制下に1902年独立したキューバが、ソ連はじめ共産圏の援助をうけて76年以後社会主義国家になったことであるが、なおアンチル諸島にはアメリカ、スペイン戦争の結果1898年来アメリカ領となつたプエルトリコ以下多くの米英他国領が残こされている。ほかにメキシコほか北米大陸部ではもとスペイン領だったグアテマラのごときも1823年、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ等と中米連邦共和国を形成したもので、住民の人種構成からいってもインディオのほかスペイン系白人との混血が多く、北米といながら、**アングロアメリカ**に対する**ラテンアメリカ**的性格が強い。なおデンマーク領グリーンランドもまたこの北米大陸に属する。

これに対して**南米大陸**のアルゼンチン以下10の共和国はポルトガルの植民地だったブラジルを除きスペインの植民地時代後1810年代以来のふるい独立国であったのが、1966年にはもとオランダついで、イギリス領だったガイアナ (Guyana) が社会主義路線に沿って協同共和国を樹立したほか、ボーキサイトの産地旧オランダ領だったスリナムも54年に自治権を獲得、75年11月に独立している。なおこの南米大陸ではイギリス、アルゼンチン間に内戦のあったフォークランド諸島とフランス領ギアナのみが、植民地その他として残こされている。最後に広域の南太平洋域を占有する**オセアニア**でも従来のオーストラリア、ニュージーランド2国のほか1960年代以後9のイギリスを主とする植民地が、共和国ないしは王国として誕生している。ただしこの州は6大州中なお最も多くの植民地を残存し、その中には現在アメリカ領になっている旧日本の南洋群島委任統治領もふくまれる。オーストラリア、ニュージーランドは水爆の禁止を主張する世界の福祉国家である。以上この25年間には世界に81、すなわち1956年当時の85と同じだけの国家が新たに誕生し、また**既成国家の体積改善**が行われつつあるのである。しからばこれら新誕生国家が増加し、既成国家もまたその体質を変化さしつつあるこの25年間に、国の政治の中枢機関たる世界の**首府**もまた、その性格をいかに変じつつあるかを、この場合は**都市地理学の課題**をも兼ねてつぎに

考察してみよう。

(2) 増加した世界の首府とその性格

前章で1956年から81年迄の1/4世紀間に世界の国々の数が2倍に増加誕生したことを述べた。国の政治の中枢機関である首府の場合の絶対数も同様であるが、この首府の場合は第

第3表 世界の百万首府数の州別増加

年代と百万都市数 州別	1951			1956		1981		
	百万都市数	同首府数	百分比	百万首府数	百万都市数 (内訳)		同首府数	百分比
アジア	16	5	31%	9	52	中国15, 日本10, インド8, インドネシア3, 韓国3, パキスタン2, イラン, イラク, シリア, シンガポール, タイ, バングラデシュ, トルコ, ビルマ, フィリピン, ベトナム, パキスタン各1	16	30%
ヨーロッパ (ソ連)	16	9	56%	11	20	イタリア4, 西ドイツ3, スペイン2, イギリス2, オーストリア, チェコスロバキア, 東ドイツ, ハンガリー, フランス, ブルガリア, ベルギー, ポーランド, ルーマニア各1	20	100%
アフリカ	1	1	100%	1	7	エジプト3, エチオピア, ザイール, ナイジェリア, モロッコ各1	4	57%
北アメリカ	7	1	14%	1	12	合衆国6, メキシコ4, カナダ1, キューバ1	3	25%
南アメリカ	4	3	75%	3	16	ブラジル8, コロンビア2, アルゼンチン, ウルガイ, エクアドル, チリ, ペネズエラ, ペル各1	7	43%
オセアニア	2	0	0%	0	2		0	0%
計	46	19	41%	25	109		50	45%

3表でみるようにことにその人口百万以上の首府の数もまた51年度は19だったのが、56年には25となり、さらに81年現在では50と、同じようにこの25年間に2倍になっているのである。さらにその6大州別比率をみると同表右欄に示した如く、その一般百万都市数との100分比率は平均45%、州別には歴史のふるいヨーロッパの100%以下アフリカ、南アメリカ、アジア、北アメリカの順となり、オセアニアは0%となる。これはオーストラリアの首府キャンベラが内陸に新設された純政治的都市たるがためであり、ウェリントンもまた人口35万人にすぎない。其の他個々の首府名及びその人口は第2表で示めた。人口は時に広域のものは備考欄に記るした。また首府をもふくむ百万都市の各国別数についても第3表の内訳欄に示した。これによるとまず世界において百万都市の最も多いのは中国の15を筆頭に、日本10、ブラジル8、インド8、アメリカ合衆国6、イタリア4、メキシコ4、韓国3、西ドイツ3、エジプト3、他の国々は2以下となる。ところがこの場合でも、合衆国とブラジルの首府は、百万人に達しないのである。一方第2表をみれば明かなように166の首府の中には人口100万以下の首府がその%を占め、中には人口10万にも達しないものも可成りの数存在する。この最後者には第1章でのべたように、旧植民地が新しい独立国になった国々の首府が多いが、一方にパキスタンのイスラマバード(Isramabad)のようにふるい首府カラチからの移転に伴う新首府もふくまれる。その他ヨーロッパの場合、サンマリノやバチカン市国、モナコのような既成の面積最小国がふくまれることはい

うまでもない。

以上政体や人口の変化を主にして現在の世界の首府を概観したが、機能的にみると首府はひとり国の政治行政の中核的機能の役目をはたすだけでなく、他にも商工業、交通運輸、時には軍事、宗教的機能、臨海の首府にあっては港湾計画等をも兼ねるから、その市街地の用途別利用区分も極めて複雑となり、歴史のふるい首府にして、戦災を被ったものにあつては、戦後その再開発が急がれた。筆者が訪ねた1957年当時のイギリスやドイツの都市では、なお戦災の跡まなましく、ロンドンでは早くも市街地の再開発とともにグレーターロンドンをとりかこむ郊外でもニュータウン計画が進行していた。一般にかかる歴史のふるい首府にあってはふるい政治的核 (Political core) の位置が、その後の政体の変化にもかかわらず、案外持続性をもち、従つて何よりも戦後の再開発を必要とするのである。古代ローマ帝国の首都ローマの中心地にあるパラチノの丘付近には今もなお現イタリアの政府機関があり、日本の東京でも現政府機関は旧江戸城をとりかこんでいる。北京市街には地下鉄の工事等につれ現在旧城壁は全部とりこわされたが、その市街地はかつての元の大都の東西幅はそのまま、北部を切りすて、南部を拡張したもの。また一昨年筆者が訪中の折は、かの王府井付近の旧住宅街のとりこわしがみられた。ここでも故宮のある内城地域に今もなお政府行政機関が存することに変わりはない。しかし首府の中にはその後の政体の変化や人口圧によってインドのデリーと以前のカルカッタにみるように、その位置を途中から移転させたものなどさまざまである。

いま世界の首府域を発生形態の分類すると、①その数が最も多く起源のふるい歴史的首都—その構造は歴史的核心を取りまいて圏構造を形成するものが多い—②政治的機能の特化卓越をみる計画的な新首府③両者を兼ね合わせたものその他に3大別することが出来る。まず①は第4表の第1期にみるようにヨーロッパのアテネ、ローマをはじめ、アジアでは北京その他の旧囲郭都市、中南米ではメキシコシティ—その他が含まれる。筆者は1958年メキシコシティを訪れた折、現地人に地盤沈下の話をきいた。これはこのスペイン軍に侵略された都市がもとは湖中に建設されたインディオのアステカ帝国の首都を踏襲したためであつて、今なお市街には新旧両様の建物が混合している。筆者は以前1956年現在での世界の百万都市110—この場合は Suburbs の人口をふくめた広域人口—についてその発生年代を第1期、16世紀以前に誕生したもの、第2期16世紀以後誕生のもの、第3期、19世紀の産業革命以後に誕生したものに3分類し、その数を6大州別にかぞえてみた。ここで第2期は149年のコロンブスの新大陸発見、第3期のはじめは1815年のウィーン会議をもつてしたが、第4表では今回さらに第1期のもののみについて具体的な首府名等をも記入

第4表 百万都市の州別発生年代

時代別 州別	第1期	同 首 府 名	第2期	第3期	計
ア ジ ア	17	東京、北京、モスクワ、ソウル、デリー、バグダッド、テヘラン	14	13	44
ヨーロッパ (ソ連)	26	ローマ、ロンドン、マドリード、ブタペスト、アテネ、プラハ、パリ、ウィーン、リスボン、ベルリン、コペンハーゲン、ストックホルム、ブカレスト	3	2	31
アフリカ	3	カイロ	0	2	5
北アメリカ	0		9	11	20
南アメリカ	0		8	0	8
オセアニア	0		1	1	2
合 計	46		35	29	110

した。その $\frac{2}{3}$ はいずれも産業革命前の歴史的都市であり、うち $\frac{1}{3}$ はコロンブスの新大陸発見前のユーラシアの古代都市である。じつはこれらの百万歴史的首府が今もなお人口は飽和状態となり、旧市街地の再開発や、ロンドン、パリ、大東京の如く周辺に副都心やニュータウンを設けることによってその成長と将来計画に資するものである。これら歴史的百万都市の個々の将来計画については、筆者はかつて谷岡武雄との共編によって多くの執筆援助者を得てその都市誌を述べた²¹⁾から今は同じ記述をくりかえさない。

つぎに第2の型はいうまでもなく、第3期以後の新現代に属するものでワシントン、キャンベラ、ブラジリア、イスラマバード等にみる新計画首府である。さきのオーストラリアの地理学者 G. Taylor はその「都市地理学²²⁾」の中で自らも関係したキャンベラの設立に至った理由を説明している。すなわち1900年首都たるシドニーから100マイル以内の箇所といった条件の下で色々論議の結果 Murrumbidgee 川畔の Capital Hill にいわゆる“Cobwebs” 状の政庁をおき、これを中心に放射状道路の終点に六角形の副核が1913年以後設立されたものとする。筆者も1974年暮この静かな首都をたずねたが、市街地の発展は必ずしも初期の計画通りではなかった。ワシントンの場合、1790年 G. Washington がこの地を選んだもので、ホワイトハウスがこの町の象徴たることはいうまでもない。その他さらに内陸の首府ブラジリアが人口圧のリオデジャネイロから遷都したのは1960年のことで、そのパイロットプランはあまりにも著名である。またこれをアフリカについてみてもこれよりふるく青ナイルと白ナイルの合流点にあるスーダンの首府ハルツームはもとあった原住民の都市の近くにイギリスにより新設されたもの、今では商業中心のみは対岸の Khartoum North にのびている。南ア共和国の高原都市プレトリアも同様で、この都市はトランスバール州の州都をも兼ねている。またボツワナの新首都ハポローネ (Gaborone) の都市プランは官衙地区前の中央道路は空港につづく、やはりパイロット型プランである。つぎに③の中には①と②を²³⁾折衷したものをあげる。その代表例はインドのニューデリーやマニラ市をあげることが出来る。現地を訪ねるまでじつは筆者は New Delhi と Old Delhi とは別の場所だと考えていたが、政府機関のある前者はじつはヤムナ川畔のレッドフォートをとりにかこむ城壁の町オールドデリーの西南部に1931年に新計画され、この両者を con-naught 広場 (Place) が結びつけているというのが現状である²⁴⁾。同様に筆者が訪ねた1974年当時のマニラ市街の外周に独立したケソン市 (Quezon) が存在した。それは旧マニラ市街から政府的機関の建物のみを、その外環状道路の外側部に移行するというものであり、行政的にも一まず区別された独立新市であった。ところが現在では再びマニラ市のケソン地区²⁵⁾となっている。つまりふるい首都域の再開発を近郊の空地に求めたものであり、大きくは1の型に入れられるものといってよい。ところが、このような大きな歴史的核をもたない新誕生国の首府は今後どんな型式をとるか、其他としたのは①②いずれかの折衷型という意味である。

この他国或は領土に占める首府の相対的位置その他については、既にふるくドイツのコール²⁶⁾以後多くの概説書でも述べられたし、ことに G. Taylor はその教書中で世界都市全般を地形位置や気候帯と関連して述べている。この場合とくに首府のみを限った場合となるとティラーが述べたエルサレムの地形と人種別居住区等微地形問題のほかは国の政治行政の中核域に関する都市計画的な問題や、新誕生国首府間の連絡などとなると国際空港その他交通機関の問題も今後大きな首府研究の課題となるであろう。またドイツのクリスターの中心性理論 (Zentraler Ort) の問題を²⁷⁾、今後は首府を中心に論じられないものであろうか。紙数の関係からこれらの問題は改めて、他日具体的に考えてみたいと思う。

註

1. G. Tayler. *Geography in the Twentieth Century* 1951. 藤岡謙二郎, グリフィス・テイラーの生涯と学風 (同『第三地理学の旅』昭和51年).
2. 藤岡謙二郎, リスボン, モロッコの歴史的三都, マドリード, トレド, パリその他 (同『回想と自己批判』) 昭和53年.
3. 東京都『首都圏整備計画資料図集』1961.
藤岡謙二郎『日本の都市その特質と地域的問題点』昭和55年4刷.
4. F. Ratzel; *Politische Geographi* 1897. 国家有機体説を述べる.
5. H. C. J. Mackinder: *Britain and the British Sea* 1906. ここで彼は *Strategic Geography* を “dynamical aspects of British Geography”. とする.
6. 小川琢治『戦争地理学研究』昭和14年には関ヶ原役, 長篠合戦等戦史の地形学的背景や彼の専門領域たる黄河下流域の戦略地理を述べるが, 日華事変中に彼は死んでいる. 他に彼は太田喜久雄と共著で地人書館の『地理学講座』(昭和5~6年)中に飯本信之が『政治地理学』を担当したのとは別に『戦争地理学』を担当した. この小川の衣鉢を継いだのが, その門下の小牧實繁である. 地理学の実践的性格を強調, 太平洋戦争中自らが主宰する京大地理学教室を中心として日本独自の地政学研究の必要性を宣言強調した. 小牧實繁『日本地政学』昭和17年.
7. 岩田孝三『国境政治地理』昭和13年. 戦後の氏の研究は日本近世の『関趾と藩界』1962等の問題のみを取扱うが, 木内信蔵編の朝倉地理学講座の『政治地理学』(昭和43年)では再び「政治地理学の本質と方法」を述べている.
8. 米倉の研究は戦後『東亜の集落』(昭和35)と題して集大成されたが, もともとは「信濃における首邑の変遷」(『地理論叢』7, 昭和10年)や大津京址の研究にみられるように日本古代の首都たる宮都や国府を取扱ったものが多い. その他氏は朝倉書店講座の森鹿三, 織田武雄共編の『歴史地理講座』(昭和32年)中に日本の古代を担当, ここで古代の国土・村落, 都市を概観している.
9. N. Pounds. *An Historical and Political Geography of Europe* 1947.
10. S. W. Wooldrige and W. G. East: *The Spirit and Purpose of Geography (Hatchinson's University Library Geography)* 1951. この同じ叢書の中に A. E. Moodie: *Geography behind Politics*. 1947. がある. イーストには他に *An Historical Geography of Europe* 1935. なる名著がある. 筆者はイギリスのロンドン大学留学当時彼と話しあったが, イギリスでは現在を問題とするイーストは政治地理学者, cross-section の地理を取扱うダービー (H. C. Darby) は歴史地理学者だと考えられていた. 現在イギリスでは季刊の雑誌 “Political Geography” が出ている.
11. Richard Muir: *Modern Political Geography* 1975, (81) 5部の題目は Part 1. Introductory. (1.1, Definition's and approaches 1.2. Past development, 1.3 Prospect) 2. Political Regions and Time. 3, Political Regions and Structure (3.2. The State Capital. 3.3 Core Areas) 4. Political Process, Perception and Decision-making. 5 political Process and the State である.
12. V. Cornish: *The Great Capitals*. 1923.
13. 横山昭市, アメリカ政治地理学の研究志向—遺産評価から空間分析まで—「人文地理」第29巻第4号, 1977. 要旨は W. D. ジャクソン・横山昭市『政治地理学』1979中にも要約されている.
14. R. Hartshorne: *Political Geography (J. James, C. F. Jones: American Geography-Inventory & Prospect-)* 1954.
15. D. W Whittlesy: *The Earth and the State* 1943. この書物は終戦直後日本にも進駐軍推薦の書物として紹介された. いわば国家の問題を意識した政治地誌書である. アメリカの政治地理書中最初のものであるからその目次をあげるとつぎの如くである.

1. Geographic Features of the State. 2. The State and Communication. 3. Political Geography and localized Resources. 4. The Oceans as international Area. 5. The Coast and State and World power. 6. France Archetype of the Occidental National State. 7. A Conflict of Maritime and interior interests — Germany — ⑧ East Central Europe exemplified in its *Capitals*. 9. The Mediterranean Realm. 10. Geopolitical Structures in Italy. 11. Africa, in Exploitable Continent. 12. Geopolitical Antithesis in the Americas. 13. Latin America. 14. Latin-American *Boundaries and Capitals*. 15. The Antecedent Boundary between the Americas. 16. The Geopolitical Structure of North America. 17. Earth impress on political Thought. 18. Earmarks of Political Geography.
16. S. B. Cohen & L. D. Resenthal. A Geographical Model for Political System Analysis (The Geographical Review vol. LXI 1971.) コーヘンはクラーク大学教授, ローゼンタールはメリーランド大学の地理学部の助教授, 彼等は政治過程 (Political Process) と人間を主にした土地すなわち地理的空間 (Geographical Space) との結びつきを系統的に発展するモデルとして考えた. 例えば Forces→political Structure→political Transaction→political action Area→Place→Area→Landscape であり, Forces の下にはアメリカ式の Territoriality を考える点ではやはり地政学的な見解に立っている.
17. M. I. Glassner & H. J. de Blij: Systematic political Geography 1967~1973. P. Buckhaolts: Political Geography 1966.
18. K. W. Deutsh: The Growth of Nations: some Recurrent Patterns of political and social Integregation (World Politics. vol. 5), 1953.
19. 藤岡謙二郎, 世界の首府とその性格 (「立命館文学」84号) 1952年.
20. 1951年当時使用した統計書が今手元にないため, 今回使用の次のものによった. 朝日新聞「朝日年鑑」1982, 総理府統計局「国際統計要覧」1981, The Statesman's Year-Book 1981-82, Geographisches Taschenbuch 1981/1982 他に W. G. Moone: The Penguin Encyclopedia of Places. 1971. 共同通信社『世界年鑑』1956, 三省堂『コンサイス地名辞典, 外国編』52年.
21. 藤岡謙二郎・谷岡武雄共編『地図にみる世界の百万都市』昭和51年
22. G. Taylor: Urban Geography — A study of Site, Evolution, Patterns and Classification in Villages, Towns and Cities, 1949.
23. 藤岡, 西村, 浮田, 服部, 金田『世界地誌—改訂増補版—』昭和57年, W. H. Hance: Population, Migration, and Urbanization in Africa 1970. その他世界の都市誌は23巻にわたる P. Vidal de la Blache et Gallois: Géographie Universelle, 1922 参照.
24. India Tourism Developmetn Corporation: Delhi City Map, 1972.
25. 藤岡謙二郎, 途中下車のマニラとケソンの市街 (同「第三地理学の旅」) 昭和51年
26. J. G. Kohl: Der Verkehr u. die Ansiedelung in ihrer Abhängigkeit von der Gestaltung der Eordoberfläche, 1850.
27. W. Christaller: Die Zentralen Ort in Süddeutschland: eine Ökonomische-Geographisch Untersuchung über die Gesetzmäßigkeit der Verbreitung u. Entwicklung der Siedlungen mit städtischen Funktionen, 1933.
藤岡謙二郎編『都市地理学の諸問題』昭和57年

Summary

The number of capitals of the world in 1981 are 166. When compare with the number of the capitals in 1920, after the first World War, we were astonished by the rapid increase of them. This increase was ocured during after the second World War, especially from 1956. Among the six continents, Africa is the fist, in where there are 56

states and 5. colonies now and next is 43 states in Asia continent, third is Oceania in where 7 states was borne since 1970. Judging from the point of view of political system of these states in 1981, there are 141 republics compare with the number of constitutional monarchies. This tendency signify rid of colonial rule from motherlands and yet there born some people's republics which changed from monarchies.

I can classify the world capitals next 3 types from the point of view of genesis and morphological type.

... Historical Capitals which was born in ancient time and their city structure form the concentric zone type around historical core. For example, London, Paris, Rome, Athence, and Mexico City et. (table 2, 3, 4) and yet these historical capitals compose the million cities. ... New planned capitals which excel in political core. In this type belong new planned capitals which moved from old capitals like Canberra, Brasilia, Isramabad. Onother type is new capitals which was born after second World war like Gaborone in Bostsuwana. ... The compromise type of capitals. In this type belong like New-Dehli, Quezon City in Manila et.

Until the second World War, the research of political geography discussed mainly the expantion of states and territories from the point of view geopolitik. But the research after the second World War, we must turn our focus point to the World peace as G. Taylor declared in the name of "Geopacific,, and also political geography must have the characters of "dynamische Länderkunde" and the point of historical change. In this papers I surveyed the problms of political geography and the change of world Capitals after the second World War from the point of view in historical geography.